

望ましい町民のあり方を求めて 教育目標の設定を望む

小須戸町教育懇談会開催

去る十二月七日、小須戸町役場会議室において恒例の教育懇談会が開催され、教育全般にわたる論議が交わされました。



参加されたのは、五十嵐町長をはじめ、町三役、町議会の正副議長、議会総文書委員、教育委員、社会教育関係者、各小学校長、教頭の方々と、学童センター四十余名、そのほか町教育を通じての最高メンバ―四十余名、それらに現在及び将来を目標とした高度な内容をめざした論議が交わされました。

座長には、連合PTA会長の佐藤昭五氏が推され、五十嵐町長挨拶の後、次の二つのテーマが話題として提供され、活発な発言で終始しましたが、その要旨は、

1、望ましい町民のあり方を求めて、
2、町民を対象とした教育目標といたしたもの、
3、専門的な委員会を構成して前向きに検討しては

四十五年前の 金毘羅宮での体験談

中村 信 作

古い話ですが昭和七年十月、私が金毘羅宮を参拝した時の思い出です。大阪汽船の鳴戸丸で大阪港八時出航、三時に四国の多度津着、電車で金毘羅宮へあの有名な石段を登って参拝し、急いで宿屋へ戻り(宿は今年町の老人会の宿大門の備前屋)部屋割も決まらぬのに広間に有った衣箱へ服を脱ぎ、寝巻に着がえて風呂場へ其処で脱衣箱の服のポケットの中へ財布を入れて来たのに気がつき、戻って見たら無いのに驚き(驚くのも無利はない

のです。私は当時面白い傍貴金属の仲買をしていたので財布の中に五円と十円と二十円金貨を東京の間屋で当時の金で約千円位になる気億の金が入っていたのですから)それで社務所で御札を求めた時忘れただけではないかと帳場で社務所に電気がありませうかと聞いた話がありませうというので雨降るの傘さして寝巻姿であの石段を二度登り漸く社務所へ。神主さんにもしや財布を忘れて戻って来たのだからと聞かされたので、しほしほ戻り念のため衣箱箱を

開いた後、次のような要望が個別に述べられた。校舎、教室、グラウンド、町民プール、図書館、高(校)誘致、その他の施設、備の整備充実を促進してほしい。

3、青少年の健全育成について、

各地域におけることも、各地域の先駆者等が指導者クラブ等について、指導者クラブ等具体的な活動が望ましい。

・在町高校生の問題につき、
・等々、教育のあらゆる分野について、真剣にかつ熱心な論議が時間のたつのも忘れて行われまし

指導者講習会
去る十二月十一日、中央公民館三階において室内レクリエーションの指導者講習会が行われまし

見たり先程ヒックリ返した箱の隅に財布が入っていました。

中味もそのままでした。二人入っていたので取っ

もちろんその時は宴会も済み寝られた方も大勢も石段を登ったのに疲れたらうことになった。

く、頭をかく、汗をかくことさうです。はずかしがらずに進んでゲームに参加するようにしましょう。

参加者は、各方面のリーダー達で、約二十種目に渡るゲームを順次こなしていきま

この度の指導者講習会は、教育委員会の主催で、勤労青年学級が主管したもので、これからのよう

多岐にわたる指導者を養成していきま

さあ、考えて？
つぎの問題の□の中に答えを書いて公民館へ。

答えて、住所、氏名、学年、クラスをハッキリ書いてハガキで送って下さい。

正解者の中から五名の方に賞品をお贈りします。

一問、十二月三十一日の夜はおお□□です。

二ともクイズ
三問、二月二日の夜見る夢を□□とい

前号の正解は
一問、師走、二問、ウマ

抽選の結果、次の方々に賞品をお贈りしました。

新野二 吉田成昭 二年
新代田 八木和博 二年
新保 高山公子 三年
大川前 新井田秀子 四年
新田二 吉田愛子 四年

【青年通信】
青年学級
今月十一日(日)に室内レクの指導者講習会を

主管、彼ら自身も真剣に受講して

学校の歩みやみんなの声を集めた文集が

近々刊行される予定です。名づけて「ささやき」

寒梅の咲かせ方
お正月の鉢物として、寒梅は部屋中をほのかな香もよく、ぜひ一鉢飾りたいものです。

梅には沢山の種類があり、大別して野梅系と難波系に分けられます。

梅の花芽は暑く夏にできるもので、(七月上旬から八月中旬ごろまで)

から冬の初めにかけて、相当長い期間寒さにあわないと休眠がさめず、性質があります。

電々だより
加入電話の名義変更について

手続きは簡単です。名義人が死亡した場合、加入権の承継を六か月以内に申し出ていただくことになっております。

お父さんの死亡事実を記載した除籍抄本及び承継する人の戸籍抄本を各一通と印鑑をお持ち下さい。

郵便局だより
ふるさとのスタンプをどうぞ

公民館の臨時休館
年末年始のお休み

左記のとおり、中央公民館を臨時休館いたしますので、よろしくお願ひ申し上げます。

期間 五十二年十二月二十八日(日) 五十二年一月五日(日) 五十二年一月十五日(日) 五十二年一月十六日(日)

中学生文芸
三年生・俳句

菊の香に誘われ入る展示場
消え残る夕やけ空に赤とんぼ

秋晴れや空をたぐりゆく飛行機雲
夕月夜かき消すような黒い雲

山々も見渡す限り秋の色
晩秋の日はすぐ落ちる帰り道

夕やけをとんで離れる渡り鳥
窓の外すすき煙と秋の空

十一月句会報
小須戸町俳句同好会

靴に泥和えつゝ午芳ほり
駅伝や枯野俄かに活気づく

齋藤に実が垣のうちと冬構え
草骨の透けて見る朝冬に入る

別れ堀本に汚れを残しけり
残り柿梢にゆれて日矢そそぐ

子の作品先づ探出す文化祭
ばち／＼と豆鼓炎と化してゆく

今朝の暗れ蜻蛉俄かに数減らし
手の温み木の実に残し児が眠る

時雨るるや路地へ流るる葬家の灯
新らしく出来たハウスに初時雨

歛の手にとんぼ縋りし野分かな
採り残す野菜こぼる今朝の霜

新潟寄居浜にて
中央町三丁目 我妻清作

北国の寒き夕べの道暗く背にのり懸る
海鳴りの音

太浪 秀穂 越後 四山 可津朋 富沙子 紀男 林哉 檜男 堅一郎 良遊 香月 松山 芳人 紫江